

授 業 科目名	【 G 】	教材開発演習Ⅱ	区 分		開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	教材開発演習Ⅱ				【 H 】 3		【 H 】 2
科目区分	大学が独自に設定する科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【 G 】 教員の免許状取得のための選択科目						
		【 H 】 教員の免許状取得のための選択科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目							
サブ タイトル	教材の開発と模擬授業の実践					担当者	田中 秀典	
授業概要	【概要】	【実務(高等学校教諭)経験を活かした授業】 高等学校における教育経験をもとに、学校現場で求められる基礎的な実践的指導力の育成を図る。 【概要】 本演習は、学校現場で授業を行っていくうえで不可欠な「教材開発能力」及び「授業実践能力」を高めることを目的とする。具体的には、教材の開発、授業の組み立て方、教材の提示や活用の方法、発問との組み合わせ方、学習指導案の作成方法などについて、事例分析及び模擬授業における実践を通して身につけていく。一連の取り組みの反復を通じて、実践者として長所の伸長と改善点の克服に努めていく。						
	【到達目標】	○学習指導案の作成と模擬授業の実践を重ねることで、授業スキルを高めることができる。 ○教材開発を重ねることで、応用的な教材開発の方法と視点を身につけることができる。 ○受講者が互いの授業を見合うことで、授業分析の視点を獲得し表現することができる。						
履修条件	教職課程を履修していて、授業スキルの向上に強い意欲を持っていること。							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【○】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ (当てはまらない)					
他科目との 関連性	教材開発演習Ⅰ、事前・事後指導、教育実習Ⅰ・Ⅱなど							
教科書	中学校社会科および高等学校地理歴史科・公民科教科書							
参考書	日本教材学会編『教材学概論』図書文化 日本教材学会編『教材事典－教材研究の理論と実践－』東京堂出版 など。これ以外については随時紹介する。							
評価方法	模擬授業（80％）・学習指導案（20％） ※出席は評価の前提条件となる。また、受講者には授業への積極的な参加を求める。							
フィードバック 方法(※)	模擬授業及び課題へのコメント							
評価基準	意欲的に教材開発を行い、よりよい模擬授業を実践することができた者には「S」または「A」を与える。 教材開発や模擬授業に不十分な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、取り組む姿勢が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。 全く出席しないなど判定不能な者は「F」とする。							

授 業	【 G 】	教材開発演習Ⅱ	区 分	開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 2
科目名	【 H 】	教材開発演習Ⅱ			【 H 】 3		【 H 】 2
授業内容	<Ⅰ. 講義（第1～3回）> 教材の開発、学習指導案の作成方法について取り上げる。 <Ⅱ. 模擬授業（第4～14回）> 模擬授業を実施し、受講者全体による相互評価を通して長所への気づきを促すとともに改善点を抽出する。 <Ⅲ. 総括（第15回）> 学習内容の振り返りとともに、今後の授業実践に向けて課題を整理する。						
予習内容	教科書の該当範囲の読解 ※授業ごとの予習時間は90分程度を目安とする。						
復習内容	授業内容、理解が不十分な点についての復習 ※授業ごとの復習時間は90分程度を目安とする。						
その他	模擬授業の時間数は受講者数によって調整する。なお、意欲的に取り組むことができない者には受講の停止を勧告する。						